

# 「香川県における外国人旅行者誘致の状況」

～上海線就航に伴う中国人旅行者誘致への取り組みを含んで～

昨年香川県の明るい話題として、格安航空による上海線の開設が挙げられる。上海線の開設をきっかけに、中国人を中心とした訪日外国人旅行者の香川への誘致が注目された。昨年3月以降、東日本大震災とその後の風評被害で、外国人旅行者誘致を取り巻く環境には厳しいものがあったが、今回は、上海線就航に伴う中国人旅行者誘致への取り組みを中心に、県下で官民一体となって取り組んできた一連の外国人旅行者誘致活動をまとめてみた。

## 1. 観光立国宣言

まず、観光を巡る最近の国内の動きを見ると、大きな節目のひとつとされるのが、平成15年1月の小泉純一郎元首相の通常国会での施政方針演説である。演説の中で政府を挙げて観光の振興に取り組むことが宣言され、以降、各関係機関で観光に関する議論が一気に高まった。同年7月には、観光立国関係閣僚会議において「観光立国行動計画」が策定され、翌16年11月には、55の提言からなる「観光立国推進戦略会議報告書」がとりまとめられた。

当時の観光産業の日本経済への貢献度をみると、平成14年の日本国内における旅行総消費額は21.3兆円、このうち観光産業への直接消費額は10.5兆円で国内総生産（GDP）の2.1%に相当する規模であった。旅行消費が他産業の生産に影響を与える金額を含む「生産波及効果」は49.4兆円に上り、観光は当時から日本経済の中で重要な位置を占めており、現在もその高い位置に変わりはない。

■日本人海外旅行者数及び訪日外国人旅行者数の推移(全国)

(単位:万人)

	日本人海外 旅行者数	訪日外国人 旅行者数	主な出来事				
			韓国	台湾	中国	米国	
平成6年	1,358	347	92	65	19	53	関西国際空港開港
7年	1,530	335	87	58	22	54	阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件
8年	1,670	384	99	72	24	59	
9年	1,680	422	101	82	26	62	アジア通貨危機
10年	1,581	411	72	84	27	67	オリンピック長野大会開催
11年	1,636	444	94	93	29	70	
12年	1,782	476	106	91	35	73	
13年	1,622	477	113	81	39	69	米国同時多発テロ事件、USJ開業
14年	1,652	524	127	88	45	73	サッカーワールドカップ・日韓大会開催
15年	1,330	521	146	79	45	66	「ビジット・ジャパン・キャンペーン」スタート、イラク戦争勃発、SARS集団発生
16年	1,683	614	159	108	62	76	韓流ブーム
17年	1,740	673	175	127	65	82	愛知万博開催
18年	1,754	733	212	131	81	82	
19年	1,730	835	260	139	94	82	観光立国推進基本法施行
20年	1,599	835	238	139	100	77	観光庁発足
21年	1,545	679	159	102	101	70	新型インフルエンザ世界的大流行、中国訪日個人観光ビザ発給開始
22年	1,664	861	244	127	141	73	尖閣諸島問題で中国で反日デモ頻発

出所:観光庁ほか

平成 19 年 1 月には、観光を 21 世紀における国の重要政策と明確に位置づけた観光立国推進基本法が施行されている。同法では、観光は地域経済の発展、生活の安定向上、そして国際相互理解の増進に貢献するとして、21 世紀の日本の経済社会発展のために、観光振興の重要性が謳われた。同年 6 月には同基本法に基づく「観光立国推進基本計画」が策定され、①平成 22 年までに訪日外国人旅行者数 1,000 万人、②日本人の海外旅行者数 2,000 万人、③観光旅行消費額 30 兆円、④国内旅行 1 人当たり年間宿泊数 4 泊、⑤平成 23 年までに国際会議開催件数 5 割以上増加、などの目標が掲げられた。

今日の国内経済停滞の要因の 1 つに「人口減少」問題があげられる。各地域の「定住人口」の減少に歯止めが掛からないいま、「交流人口」つまり観光客によってその減少分を補い経済を活性化させようという考えが生まれ、政府はその考えのもと観光振興に取り組んでいる。

交流人口の増加対策は、日本人の国内旅行も対象だが、むしろ外国人旅行者の受け入れ（インバウンド）対策がメインの課題とされている。前述の小泉元首相の施政方針演説の前年である平成 14 年、日本人海外旅行者数の 1,652 万人に対して、訪日外国人旅行者数は 3 分の 1 以下の 524 万人、これは貿易黒字の解消策として日本人の海外旅行は促進されてきたのとは対照的に、外国人旅行者の日本への受け入れが、あまり重要視されてこなかった結果である。

## 2. ビジット・ジャパン・キャンペーン (V J C)

観光立国推進の中心をなす外国人旅行者の訪日促進活動「ビジット・ジャパン・キャンペーン (V J C)」は、平成 15 年にスタートし、平成 22 年までに訪日外国人旅行者数を、1,000 万人にすることを目標に掲げた。平成 20 年には国土交通省の外局として観光行政を担当する「観光庁」が設置され、同庁を中心に海外での広報活動や外国人旅行者受け入れのインフラ整備などの取り込みが進められた。V J C は徐々に成果を出し、日本人海外旅行者が伸び悩むなか、当初の目標には届かなかったものの訪日外国人旅行者数は平成 22 年には 861 万人に増加している。政府は平成 25 年までに訪日外国人旅行者数を 1,500 万人、将来的に 3,000 万人とする、さらに大きな目標を掲げ、一層の取り組みを進める方針である（東日本大震災の影響でこの目標は見直される予定）。

## 3. 中国マネーへの期待

平成 20 年秋のリーマンショックで世界景気が一気に冷え込んだ時期に、中国は 4 兆元に及ぶ巨額財政出動を行い、21 年の春頃には再び高い成長軌道を歩み始めた。その頃、中国人観光客の旺盛な旅行先での消費の噂が世界各国で広がった。景気が冷え込んでいた日本においても中国人による日本観光ブームが起こった。

ブームのきっかけは、平成 20 年に中国で封切られ大ヒットした映画、『非誠勿擾 (フェイチェンウーラオ)』で、ロケ地の北海道を巡るツアーが中国人の間で人気となった。時期

を同じくして、中国訪日個人観光ビザ発給も開始（平成 21 年）され、平成 22 年にはそのビザ発給条件が大幅に緩和された（年収条件が 25 万元、約 325 万円以上から 6 万元、約 78 万円以上に引き下げられた）。

■訪日目的比率（平成22年）

（単位：％）

	観光	商用	親族・友人訪問	国際会議	その他
韓国	64.9	16.0	11.4	1.9	5.8
台湾	72.0	13.4	7.3	2.6	4.7
中国	60.4	20.5	9.9	2.5	6.7
米国	28.3	43.5	18.7	2.2	7.3
全体	57.8	22.7	10.4	2.7	6.4

出所：JNTO訪日外客訪問地調査2010

■旅行形態比率（平成22年）

（単位：％）

	ガイド付 団体ツアー	個人自由 旅行型パッケージ	個別手配	その他
韓国	22.6	13.1	54.4	9.9
台湾	38.6	14.3	37.5	9.6
中国	52.2	5.8	22.4	19.6
米国	3.8	13.6	64.2	18.4

出所：JNTO訪日外客訪問地調査2010

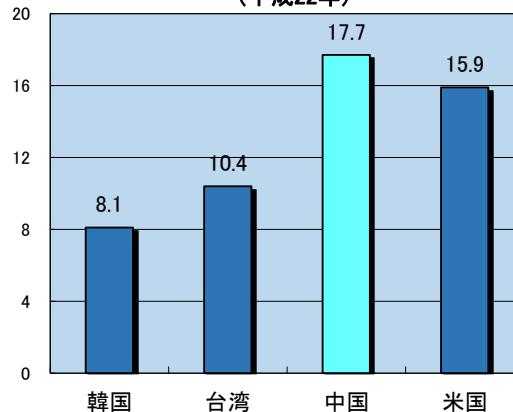
#### 4. 中国人旅行者の特徴

中国人旅行者は一般的に、最新電化製品や化粧品などのショッピング、富士山や桜など日本独特の景観や自然の観光、清潔に保たれた大都市などに関心を示すと言われている。神社仏閣に関しては中国では一般的なためそれほど関心を示さない。

「食」への意識は強く、一般的に、温かい食事を好み、冷たい食事は好まない。宿泊は、相部屋は好まず、温泉、特に景色のいい露天風呂に興味を持つ。ビジネスホテルタイプの狭い部屋は好まず、室内でも靴を脱ぐ習慣がなく、正座にも慣れていないので座敷は好まないとされている。

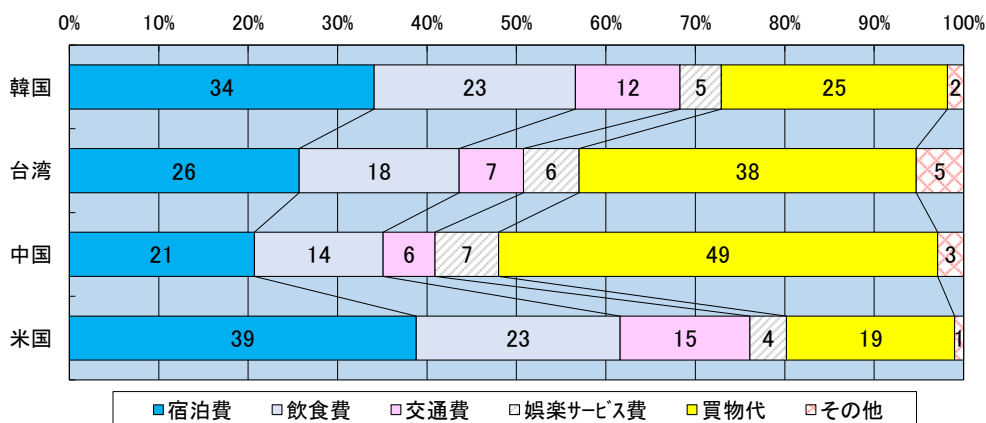
■訪日外国人旅行者1人当たり旅行消費額（平成22年）

（単位：万円）



出所：観光庁

■訪日外国人消費形態比率（平成22年）



出所：観光庁

## 5. 高松—上海線就航の経緯

香川県の外国人旅行者の受け入れ状況を外国人延べ宿泊者数（ビジネス客含む）で見ると、平成22年は年間4万人で、全国順位は40位、全国に占める割合も0.2%と低調である。延べ宿泊者数を地域別に見ると、その内訳は、台湾が32.1%、韓国が15.9%、米国が9.0%、中国が8.3%である。

こうした状況下、県は平成22年春から複数の中国の航空会社に路線開設を要望。同年11月には知事がトップセールスの一環で、中国の格安航空会社「春秋航空」を訪問し、路線開設の交渉を行った。その結果、同年12月、高松—上海線を翌23年3月に就航させることで両者は正式に合意に至ったのである（当初の運航開始予定は23年3月27日であったが、東日本大震災の影響で、運航開始は23年7月15日に延期）。上海線は、県内企業のビジネス面での利便性向上への期待が基本にあったものの、「消費旺盛な中国人旅行者」「海外格安航空の就航」というキーワードで全国的にも注目され、県民の上海線への期待も高まった。なお、高松空港発着の国際線には、韓国・アジアナ航空のソウル線があり、週3往復で運航している（平成4年開設）。

	全 国					香 川 県				
		韓国	台湾	中国	米国		韓国	台湾	中国	米国
平成19年計	22,654	4,352	3,884	2,210	2,995	39.9	13.3	11.2	1.8	3.3
平成20年計	22,248	3,803	3,727	2,478	2,737	39.3	10.8	11.1	2.5	3.8
平成21年計	18,298	2,188	2,637	2,581	2,313	25.5	3.2	5.6	2.2	3.2
平成22年計	26,023	4,148	3,359	4,509	2,766	42.1	6.7	13.5	3.5	3.8
平成23年 1月	1,812	451	233	248	162	1.4	0.5	0.2	0.1	0.1
2月	1,979	421	265	337	166	2.5	0.8	0.7	0.2	0.1
3月	991	141	105	133	143	1.6	0.4	0.2	0.2	0.3
4月	454	54	52	42	87	1.1	0.3	0.2	0.1	0.2
5月	734	96	130	65	119	1.4	0.3	0.4	0.2	0.2
6月	1,052	133	179	137	152	2.1	0.3	0.2	0.6	0.3
7月	1,493	190	261	256	167	2.9	0.3	0.4	1.0	0.3
8月	1,414	204	239	256	152	2.7	0.4	0.2	1.0	0.2
9月	1,386	171	187	238	159	2.9	0.4	0.7	0.7	0.3

出所:観光庁「宿泊旅行統計調査」より

## 6. 格安航空会社（LCC）とは

航空業界の最近の話題と言え、国内線、国際線のいずれでも格安航空会社（LCC: Low Cost Carrier）の存在が大きくなっていることがあげられる。徹底的な経営効率化を実現することで、既存の航空会社と比べて格安航空運賃を設定しているのが特徴で、平成19年にはカンタス航空の子会社ジェットスターが、LCCとして初めて国際定期路線を日本に就航させたほか、平成22年にはマレーシアのエアアジアXが羽田空港へ就航している。

高松空港に乗り入れを決めた春秋航空は、中国・上海市に本社を置く格安航空会社で、中国初の民営



春秋航空(高松—上海便)

格安航空会社、上海虹橋国際空港を拠点としている。同社は平成 16 年に発足、母体は昭和 56 年発足の旅行会社である上海春秋国際旅行社である。平成 17 年には中国国内線、21 年には国際線の運航免許を取得、22 年 7 月には初の国際線として上海—茨城間にチャーター便（週 3 便）を就航、23 年 7 月には上海—高松間（週 2 便）、24 年 1 月には上海—佐賀間（週 2 便）にチャーター便を就航させた。

座席を可能な限り増やし、機内サービスは水も有料という徹底したローコストで、大手の 2～7 割も安い運賃を実現。一方で優秀な人材を得るため、機長の年収は、中国の航空大手を上回る水準を守る。安全性の向上と徹底的なコスト削減に努め「格安」を実現している。

### 7. 香川県下の中国旅行者受入準備

上海線の就航が決まり、香川県下では官民一体の中国人旅行者の受け入れ準備が進められた。高松市中央商店街では、商店街の案内標識に中国語の表記を追加したほか、中国人が買い物に使う「銀聯（ぎんれん）カード」の決済サービスの導入を進めた。また、ホテルや観光関連団体を対象にした中国人旅行者と接する際のポイントや販売方法などを学ぶ研修会も開催された。

春秋航空が発着する高松空港ビルの免税店では、中国人旅行者に人気の炊飯器や化粧品、地元産の土産物などを中心に、品揃えを従来の 3 倍の 1,500 品目に増やした。香川県も上海線に関連して、運航経費の助成や誘客への報奨金など約 2 億 9 千万円を 23 年度予算に盛り込んだ。

### 8. 上海線の利用状況

23 年 7 月 15 日、上海線は週 2 往復の定期チャーター便で運航開始となった。当初は 23 年 3 月 27 日より週 4 往復の運航予定であったが、同年 3 月 11 日発生 of 東日本大震災の影響で週 2 往復に縮小されてのスタートとなった。運賃は 3,000 円～31,000 円の 15 段階の格安運賃及びノーマル運賃 76,000 円が設定され、機体はエアバスの A320（180 人乗り）が使用された。

上海線の利用状況を見ると、搭乗率が一時 90% 台（うち外国人割合は 6 割程度）に達するなど、概ね順調な滑り出しである。ただ、中国人ツアー客の香川県内での滞在は 1 日くらいで、周遊先は限られており、香川県内の観光地や商業地への経済効果は限定的なものとなっている。旅行日程も香川県

■上海線利用状況

空港名	高松空港			松山空港	岡山空港
	上海着	高松着	合計	合計	合計
運航会社	春秋航空			中国東方航空	中国東方航空
便数	週2往復			週2往復	毎日1往復
	搭乗率	搭乗率	搭乗率	搭乗率	搭乗率
平成 23.7	84.6	70.4	77.5	77.7	77.8
8	97.1	90.9	94.0	74.1	85.3
9	89.1	91.1	90.1	66.3	76.9
10	81.2	74.0	77.6	70.2	76.4
11	89.9	87.7	88.8	69.9	79.4
12	85.2	71.3	78.2	59.8	77.8
24.1	80.6	82.9	81.7	61.1	64.6

(注)23.7の搭乗率は台風によるキャンセル等の影響で低くなっている

内の滞在が旅行の初日か最終日となっており、格安航空を利用する客層からみて、財布の紐は硬いようである。ツアーに組み込まれた県下訪問先は、栗林公園、小豆島、瀬戸大橋記念館、善通寺などである。

中国人に人気のルートは、成田空港から入国し、東京周辺の観光スポットを巡ってから、箱根、富士山、名古屋等を経由し関西を観光し、関西国際空港から帰国するというルート、または関西から関東という逆のルート。いわゆる「ゴールデンルート」であるが、ここに香川県が食い込むのはなかなか難しいと言えよう。今は高松空港利用をきっかけに、瀬戸内海を中心とした風景や讃岐うどん、オリーブなどの特産品の良さを認知してもらい、再度日本を訪れる時は香川を訪問先に選んでくださいという段階である。募集されたツアーの行程を見ても、何とか香川で1~2泊してもらおうという苦心の跡がうかがえる。

### ■中国旅行者ツアー行程(例)

香川神戸大阪京都富士山箱根東京6日(国慶節限定商品)

日次	行 程
1	高松空港－栗林公園－神戸港
2	南京町中華街－北野異人館－USJ
3	大阪城公園－(ショッピング)－心齋橋－西陣織会館
4	河口湖－平和公園－仏舎利塔
5	皇居二重橋－(ショッピング)－お台場海浜公園
6	浅草雷門仲見世－茨城空港

香川小豆島神戸大阪5日

日次	行 程
1	高松空港－讃岐うどん(昼食)－土淵海峡－エンジェルロード
2	ふるさと村(そうめん作り体験)－姫路城－神戸港
3	北野異人館－南京町中華街－大阪城公園 －(ショッピング)－心齋橋
4	(ショッピング)－明石大橋－淡路島－栗林公園
5	高松空港

## 9. 上海線就航後の動き

23年7月の上海線就航後も県下では、中国人旅行者の誘致を巡って活発な動きが続いており、9月には、上海市内で開かれた「上海観光祭」の花車パレードに香川県が初めて参加。上海最大規模の祭りに、讃岐うどんや丸亀うちわ、瀬戸大橋などの模型で飾られた花車で行進し、香川の魅力を売り込んだ。

また、同月、高松観光プロモーション認定事業の中国人観光客向けフリートラベルマガジン「GOOD LUCK TRIP 日本楽酷遊 (ニホンラクユー)」(「地球の歩き方」責任編集)の高松掲載号が発行された。発行部数10万部、うち中国本土5万部(春秋旅行社はじめ旅行代理店4万部、富裕層向け旅行誌「世界」の付録として同梱)、日本国内5万部が配布されたほか、ウェブサイトでも公開された。高松ページでは、レンタルサイクルで市内のお薦めスポットを巡るモデルコースの紹介や、屋島・塩江など高松の観光スポットの紹介などが掲載された。

10月には、上海線の運航曜日が毎週火、金曜日から木、日曜日に変更された。これは週末を活用しやすいダイヤにすることで利便性向上を図るのが目的であった。また、同月、高松市片原町商店街の空き店舗を利用した「香川観光案内所」が開設された。中国や韓国人などの外国人旅行者に的を絞った案内所で、県のふるさと雇用再生特別基金が活用された。



高松が紹介された日本楽酷遊9月号

12月には、県と上海市の間で観光協定が結ばれた。観光誘致や情報提供、観光宣伝活動などで相互協力するほか、行政や企業の相互交流の促進も盛り込まれた。同協定の一環として同月、高松市のサンポートホール高松で「上海新雑技」の公演や上海の観光展などが開かれた。

また、上海線開設で混雑が指摘されるようになった高松空港の国際線旅客ターミナルの拡張が検討され、県は4億9,875万円の補正予算を組んだ。

平成24年1月には、上海線の週3往復への増便を国土交通省に申請、3月より上海線は火曜、木曜、日曜日の週3往復で運航されることとなった。



盛況だったサンポートホール高松での上海観光展の様子

## 10. 風評被害対策、広域連携による外国人旅行者誘致

東日本大震災後の風評被害で落ち込んだ外国人旅行者を呼び戻そうと、行政、民間が広域に連携した対策も練られている。

香川県や高松市、民間などで組織する「瀬戸の都・高松テレビドラマ誘致委員会」は日韓中の3か国共同制作テレビドラマ「フルハウス2」のロケ誘致に成功し、韓国側ロケスタッフが平成23年11月下旬から12月にかけて、高松市内や小豆島で撮影を実施した。「フルハウス2」は、韓国の人気テレビドラマ「フルハウス」の続編で、前作は、日本、中国、タイなど18か国で放映されたラブコメディ。県や市、協賛企業からの補助金2,600万円が撮影費用に充てられた。



ロケ先の小豆島エンジェルロード

四国ツーリズム創造機構（高松市）と四国の鉄道各社も、四国内の鉄道全線で使える外国人観光客向けの「四国鉄道共通フリーパス（All Shikoku Rail Pass）」を24年4月に発売することを決めた。JR四国と香川県の高松琴平鉄道、愛媛県の伊予鉄道、高知県の土佐電鉄、土佐くろしお鉄道、徳島県の阿佐海岸鉄道の全線（約1,100キロ）を1枚のパスで乗り降りできる。

サンポート高松へのクルーズ客船の誘致の動きも見られる。平成23年9月、高松港、大阪港、境港（鳥取県）、高知港、別府港（大分県）の5港が連携して東日本大震災後の風評被害を防ぐためのキャンペーン「がんばろう！日本『五港物語』」を展開することとなり、合同のプレゼンテーションやネットを利用した情報発信などで寄港促進を目指すこととなった。

## 11. 国際会議の開催

外国人旅行者誘致の観点から見ると、MICE(国際会議等)の誘致・開催も重要な取り組みの1つである。平成23年、香川県下では6月、日本とA

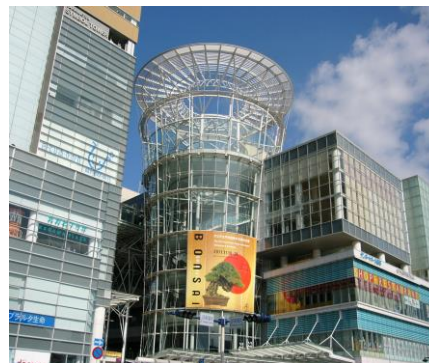
SEAN(東南アジア諸国連合)加盟10か国が交通分野における協力関係を協議する「第9回日ASEAN次官級交通政策会合」が開催されたほか、11月には、28の国と地域が参加し、アジア太平洋盆栽水石高松大会が開催された。

■国際会議開催件数及び参加者数

(単位:件・人・%)

	全 国			香 川 県		
	開催件数	参加者数	うち外国人	開催件数	参加者数	うち外国人
				全国シェア	全国シェア	全国シェア
平成19年	1,858	908,078	109,720	2 (0.1)	1,172 (0.1)	913 (0.8)
20年	2,094	1,072,163	110,852	8 (0.4)	731 (0.1)	262 (0.2)
21年	2,122	1,252,545	108,929	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
22年	2,161	1,130,380	144,958	4 (0.2)	877 (0.1)	387 (0.3)

出所:日本政府観光局(JNTO)



『アジア太平洋盆栽水石高松大会』の会場となったサンポート高松シンボルタワー

## 12. 最後に

今回は香川県下における上海線就航に関連した中国人旅行者誘致の動きを中心に調査したが、外国人旅行者誘致を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。中国の格安航空・春秋航空は、茨城、香川に続き九州の佐賀空港にも24年1月より定期チャーター便を就航させたことから、東京や富士山、京阪神の観光地を巡る「ゴールデンルート」に対抗して、九州や瀬戸内海、京阪神の観光地を巡る広域観光ルートも推奨されている。一方で格安航空社間の競争も激しくなっている。同年3月には全日空などが設立した格安航空会社ピーチが関西国際空港を拠点に路線を開設した。また、岡山空港や松山空港発着の上海線の増便や徳島空港の中国・湖南省線の開設など香川県の近隣空港の動きも活発化している。

観光立国という目標の中で、政府が最も重視している点は『それぞれの地域が観光地としての魅力を持ち、日本人であれ外国人であれ、より多くの観光客に訪れてもらえる場所になることによって、その地域全体が活気づく』という考え方である。つまり、観光客数を拡大できた地域は、経済が活性化し、税収が増加し、地元の誇りが高まり、結果として若年層の都会への流出を防ぐことができるということである。上海線も地域活性化のツールのひとつに過ぎないと言えるが、利用を促進し、将来の香川の発展に繋げていかなければならない。

(H24.3.21 財)香川経済研究所 主任研究員 高木俊裕)

### <主要参考文献>

観光白書(各年、国土交通省観光庁)、よくわかる旅行業界(日本実業出版社)、中国マネーの正体(PHPビジネス新書)、四国新聞、産経新聞ほか各全国紙